

(11月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5ヵ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
だいこん		12,130	96	11,932	39	105	69	99	0.8	千葉産中心の入荷で全体の約7割を占める。千葉産は例年通り10月中旬頃から出荷が始まったが、平年に比べ7日程度生育は遅れている。階級はL中心でやや小ぶりである。栽培面積も前年の95%と減少。作柄は豊作だった前年を下回るが平年並みの出荷を予想している。神奈川県産は11月中旬からの出荷となる見込み。作付けは前年並みでピークは12月に入ってからとなる見込み。全体の入荷量は前年並みで価格は前年を上回る見込み。
にんじん		7,861	90	7,566	87	137	113	-	-	千葉中心の入荷で全体の約6割を占める。千葉産は10月に入ってから低温で7日程度の遅れとなっている。出荷は10月25日から始まった。出荷のピークは11月下旬と12月下旬の2回。全体の入荷量は北海道産の切りあがりがかつたことと、関東産の遅れから前年の90%、価格は前年を上回ると予想される。
はくさい		12,824	98	13,233	26	154	46	-	-	茨城産中心の入荷で全体の9割を占める。茨城産は早生はくさいが10月下旬から出荷が始まった。生育は肥大も良く2L中心となる見込み。全体の入荷量は長野産が早めの切りあがり、茨城産が平年並みの入荷となることから11月は前年並み、価格は低迷した前年を大きく上回る見込み。
ほうれんそう		2,048	100	2,012	280	125	380	2	0.1	群馬を中心とする関東産が市況をリードする。群馬産は10月と同じペースの入荷見込み。埼玉産は10月25日から出荷が始まり、11月中旬にピークを迎える予想される。全体の入荷量は前年並の見込み、価格は前年を大きく上回る見込み。
キャベツ類		13,394	100	13,149	39	160	77	-	-	千葉、茨城、愛知産中心の入荷で全体の約8割を占める。千葉産は10月中旬から出荷が始まり、11月は平年並みの予想。愛知産も生育は順調で前年並みの予想。茨城産も出荷は順調であるが、やや小玉傾向。全体の入荷量は前年並、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。
ねぎ		6,019	98	6,014	209	120	219	244	4.1	青森を中心とする東北産と埼玉などのねぎ産地が市況をリードする。青森産は6~7月にかけての低温の影響により生育が遅れているが、肥大には問題はなく11月としては前年並みと予想される。埼玉産は台風で倒伏したことにより、根張りが悪く肥大に影響している。そのため、2Lの率が平年の半分、出荷量も前年を下回ると予想される。全体の入荷量は前年をやや下回り、価格は安値であった前年を上回る見込み。

(11月の野菜の見通し)

品目	区分	入荷量(t)			キロ当たり単価(円)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年実績	前年比 見込 (%)	5ヵ年平均	前年入荷 量(t)	前年占有 率(%)	
レタス類		7,693	98	6,766	88	136	176	-	-	茨城産中心の入荷で約6割を占める。茨城産は11月上旬までピークが続き、その後も潤沢な入荷が予想される。量についても前年を上回る見込み。香川産は上旬より出荷がはじまり、中旬にはピークとなる見込み。面積は減少しており、入荷量は前年を下回る見込み。全体の入荷量は豊作であった前年を上回り、価格は安値だった前年を大きく上回る見込み。
きゅうり		5,195	97	5,277	182	134	269	15	0.3	埼玉を中心とする関東産の抑制ものが市況をリードする。埼玉産は10月前半までの実績をみると前年より少な目の入荷となっている。11月は無化御栽培が終盤を迎えることから入荷量も徐々に減少し、前年を下回ると予想される。千葉産は無加温栽培が11月上旬で終了。加温栽培は残暑の影響で終了は減と予想される。全体の入荷量は前年を下回り、価格は前年を上回る見込み。
なす		2,201	100	2,166	293	121	357	-	-	高知産中心の入荷で全体の約6割を占める。高知産は生育順調で11月は10月より出荷増と見込まれる。全体の入荷量はほぼ前年並、価格は安値であった前年を上回る見込み。
トマト		5,778	95	5,183	315	121	390	11	0.2	千葉、茨城を中心とする関東産及び愛知、熊本の暖地ものが市況をリードする。千葉産は抑制物が11月上旬まで出荷となるが、着果不良で少なめの入荷となる。越冬物については前年ベースの入荷が予想される。熊本産は2段目の収穫が始まっている。残暑の影響で3段の着果にバラツキがでているので、ピークは12月になる見込み。全体の入荷量は関東産が不作気味であることから前年をやや下回り、価格は前年を上回る見込み。
ピーマン		2,216	100	1,908	164	147	305	-	-	茨城、宮崎産中心で全体の約8割を占める。茨城産は、ようやく着果も安定して11月は前年並みの収量が見込まれている。宮崎産も前年並みの出荷が見込まれる。全体の入荷量も前年並みで、価格は低迷した前年を大きく上回る見込み。
ばれいしょ		6,904	103	6,885	107	91	99	-	-	北海道産中心の入荷で市況をリードする。北海道産は収穫を終了している。大きさについては小玉傾向。食味は良好。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。
たまねぎ		10,065	110	9,832	84	83	80	-	-	北海道中心の入荷で全体の約9割を占める。北海道産の作柄は良好。全体の入荷量は前年を上回り、価格は前年を下回る見込み。